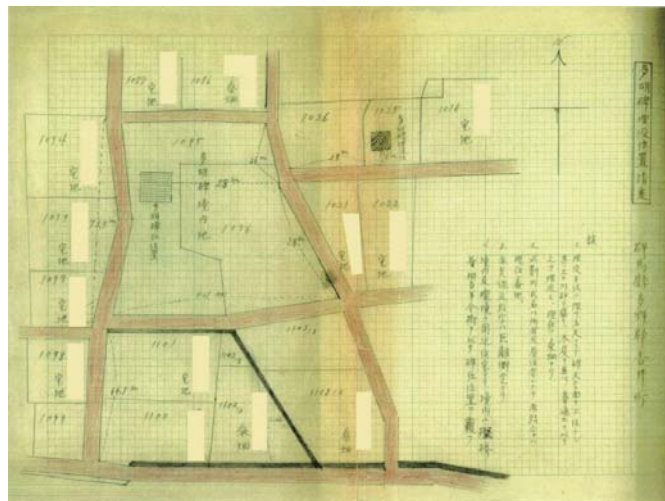


記録に残る埋設坑の位置・状況

●群馬県教育委員会には多胡碑の埋設について記した文書が残されています。これによると埋設坑について次のように記されています。

- ・多胡碑より東へ 56m の位置。(当時は畑)。
- ・平面規模は不明。深さ 5 尺 (1m50 c m)。
- ・碑身の文字面を上に向け、横倒しに設置。
文字面を川砂で被覆し木炭を並べ土で覆う。



『多胡碑埋没位置指處』(一部加工) 群馬県教育委員会蔵

●その他にも、埋設に関わった方からの聞き取り調査で、様々な証言が得られています。

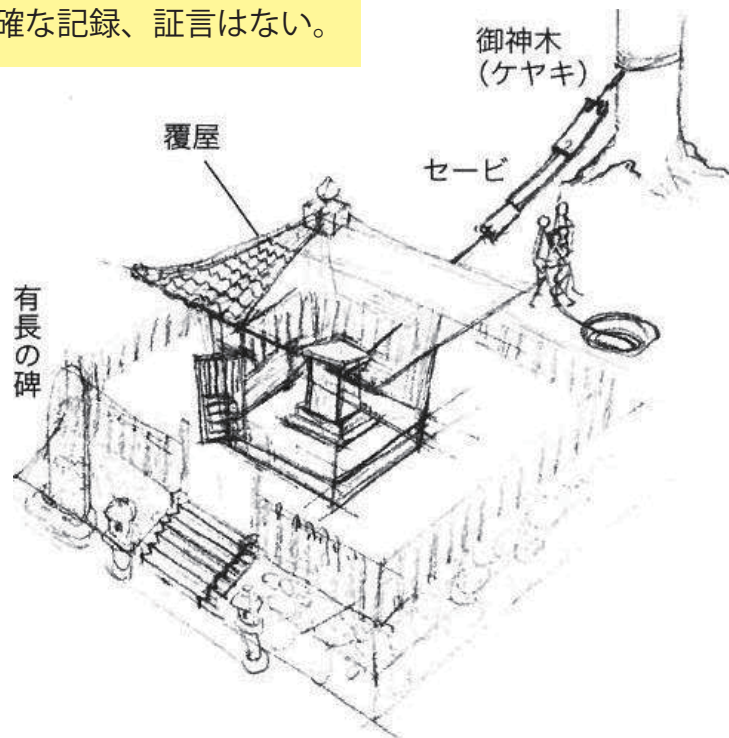
- ・埋設後は位置を隠すためダイコンもしくはハウレンソウを植えた。
- ・川砂は碑の下に厚く敷いた。
- ・笠石は、碑身の上に置いた、覆屋に残した等、明確な記録、証言はない。

多胡碑埋設、作業の復元

埋設作業に関わった方からの証言をもとに作業の復元ができます。

作業は地域の人たちの手によって行われました。布団やワラのむしろで梱包された碑は「セービ(滑車)」を用いて慎重に寝かせられ、丸太をコロにしてひもで引られました。

穴は 5~6 人程度で掘られ、半日程度かかり、水が湧いてきたそうです。



「セービ」使用状況の想像図 多胡碑記念館図録より転載

参考文献

松田 猛 2009『日本の遺跡 36 上野三碑』同成社

多胡碑記念館 2015『平成 27 年度多胡碑記念館第 39 回企画展
埋められた多胡碑 終戦後の秘話』

松田 猛 2017『上野三碑』みやま文庫

多胡碑周辺遺跡 第7次調査(平成29年度)
発掘調査報告会資料
平成30年3月10日 発行
高崎市教育委員会文化財保護課

推定「終戦時埋設坑」の調査

多胡碑周辺遺跡

第7次調査(平成29年度)

発掘調査報告会 資料

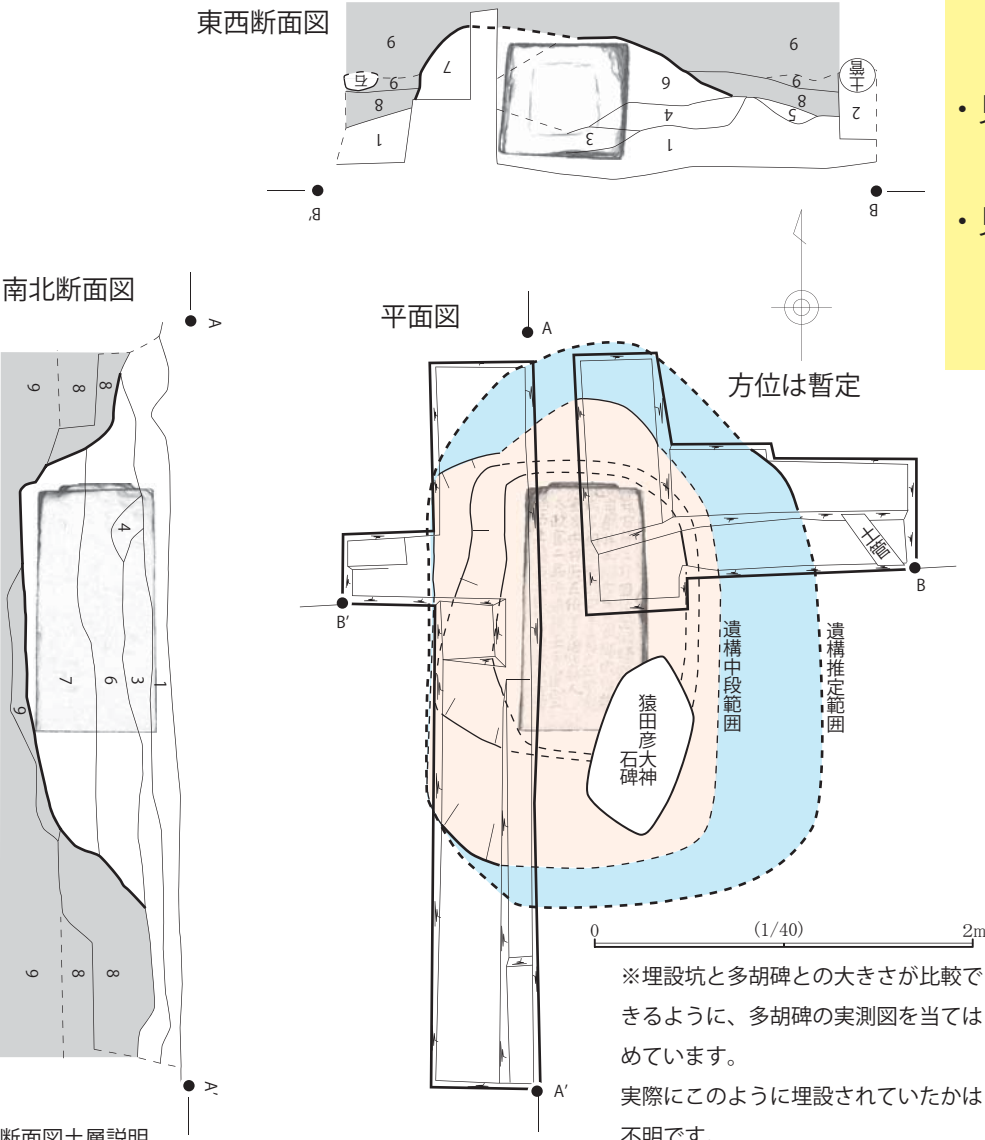
高崎市教育委員会では、多胡郡正倉跡に続き、多胡郡の郡役所(郡衙)に関連する遺跡として、多胡碑周辺遺跡を発掘調査しています。第7次にあたる今年度調査では、多胡碑と同じ時代(奈良時代)の遺構は確認できませんでした。

しかし、今年度調査では、太平洋戦争終戦後に多胡碑を隠存したとみられる埋設坑を発見しました。埋設坑の正確な位置は今まで判明していませんでしたが、ユネスコ「世界の記憶」に登録された多胡碑の現代史および来歴を知る意味で貴重な発見となります。

多胡碑埋設に関わる年表

1921 年 (大正 10)	上野三碑がそれぞれ史蹟に指定される
1935 年 (昭和 10)	多胡碑の覆屋の改築
1941 年 (昭和 16)	太平洋戦争開戦
1945 年 (昭和 20)	8 月 15 日 終戦
	8 月? 文部省の指令に基づき、群馬県史蹟調査会が 上野三碑の隠存を検討
	9 月頃? 群馬県史蹟調査会の指導を受けて、保存責任者で ある吉井町が地元住民の協力を得て多胡碑の埋設を完了。
1946 年 (昭和 21)	4 月 文部省から多胡碑再建の指示
	10 月 5,6 日? 多胡碑を再建
1954 年 (昭和 29)	上野三碑がそれぞれ特別史跡に指定
1968 年 (昭和 43)	多胡碑覆屋の改築(現在の覆屋)が行われる
2018 年 (平成 29)	上野三碑がユネスコ「世界の記憶」に登録される

推定多胡碑埋設坑の調査



断面図土層説明
1：黒褐色土 シルト＋細砂 ややゆるい。表土。
2：土管埋設土
3：暗褐色土 シルト＋細砂 ややしまる。浅間 A 軽石混。凝灰岩（径 5mm）微量混。
【掘り込み覆土】
4：褐色土 シルト よくしまる。凝灰岩（径 1～5cm）大量。基盤層由来の土か？
5：4 層と同じ。掘り込み外の堆積のため、掘り込み埋め戻し土の残土か？
6：黒褐色土 シルト＋細砂 ややしまる。浅間 A 軽石混。凝灰岩（径 1m）微量混。
7：暗褐色土 細砂＋シルト ややしまる。
【地山土】
8：暗褐色土 シルト＋細砂 ややしまる。浅間 A 軽石混。
9：暗褐色土 細砂＋シルト ややしまる。礫混。基盤層。

調査地点は私有地です。
見学はできません。

●発掘調査の所見

- ・周囲で確認した他の掘り込みは、平面規模 50cm 程度、深さ 30cm 程度であり、空き缶、ビニール等が出土するため、現代により近いものと考えられる。
- ・見つかった掘り込みは、規模、出土遺物ともに他の掘り込みとは異なる。掘り込み内の土には木炭、川砂は含まれていなかった。
- ・見つかった掘り込みは、多胡碑身が収まる規模である。部分的な調査のため断定はできないが、これほどの大きい穴を掘削する理由としては多胡碑の埋設が考えられる。

【推定埋設坑 基礎データ】

- ・多胡碑の東方約 60m 地点にて発見
- ・検出長：南北 293cm× 東西 180cm
- ・深さ ：地表面より 78cm
検出面より 50cm
- ・南北に長い隅丸方形形状の平面形と推定
- ・上半部はラッパ上に開き、 東側にテラス状の平坦面を持つ
- ・下半部は急角度に落ち込み、底面は基盤層（鎗川河床由来の層）を掘り込む
- ・遺物は最下面から近代以降の陶磁器が出土

【多胡碑の計測値】

- ・碑身：129×69×62cm
（最大長はコンクリート基礎上端からの高さ）
- ・笠石：27×95×90cm



推定埋設坑 全景（北西から）



推定埋設坑 土層断面（西から）



推定埋設坑 全景（東から）



推定埋設坑 全景（南から）



推定埋設坑 全景（北から）